

産業廃棄物最終処分場計画調査特別委員会

六厩から始まった、源流の決断

～市長の産廃最終処分場建設「反対」表明を促した、私たち議会の使命～



荘川町のダイヤモンドダスト

荘川での意見交換会や勉強会を通じて、地域の方々の不安を受け止め一緒に考えて対応を考える中で、市長にも現地の確認などで思いを共有していただけてきましたが、荘川町六厩は処分場の「適地ではない」という慎重な言い回しを転換し、市長が「建設反対」を表明されました。これは大きな政治判断であると捉えています。

議会は令和3年度に特別委員会を設置して以降、県・市の協議状況や事業計画の不備を追い続け、議会での質問を通して市長に明快な反対表明と必要な予算措置を求めてきました。

◆12月議会に750万円の補正予算

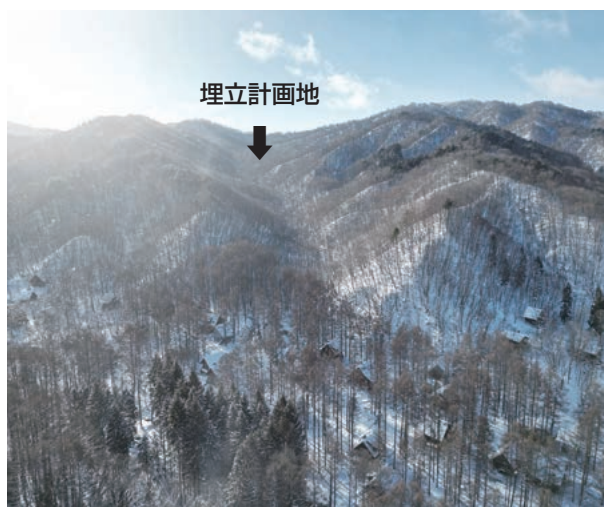
設置許可の権限を持つ県に対して、法的・科学的根拠に基づく意見を提出するための対策に予算措置

- ・産廃問題に詳しい弁護士や学識経験者への諮問
- ・設計基準等、計画の妥当性の検証
- ・水質・臭気など環境影響調査の実施 など

議会が求めたように「市としてできることは、すべてやる」という、市長の覚悟が感じられる予算です。

◆令和7年度の議会の取組

4/11	西尾市の産廃阻止対策について行政視察
6/末	富山の下流域自治体議会・関連団体への情報提供
7/14	有識者との意見交換
7/16	荘川地域での勉強会に出席し議会の取組を報告
9/9	特別委員会を代表して一般質問
10/6	砺波市議会との意見交換会・現地視察
10/20	ゴミ弁連会長の梶山正三弁護士を招き議員研修会
11/12	砺波市自治振興協議会との意見交換会
11/17	特別委員会において、市長が「産廃反対」を表明
11/27	庄川流域産廃対策協議会の総会に出席し報告
12/20	産廃対策を含む補正予算を議決



ダイヤモンドダストが見られる 荘川の豊かな自然を守り 後世に伝えたい!

◆下流域自治体の議会や団体との連携

産廃最終処分場で発生する汚染水は、ひとたび漏水などの事態が発生すれば、白川村をはじめ富山県内の庄川流域35万人の暮らしを揺るがしかねない、重大なリスクを孕んでいます。

議会は早くから流域自治体の議会や農業・漁業関連の団体を訪問し、情報を共有しつつ連携を図ってきましたが、岐阜県知事への意見書の提出や反対署名の運動につながり、富山県側のマスコミも強い関心を持って報道しています。計画事業者が富山県内の業者だけに心強い後方支援であると捉えています。

◆これからの動き

今年の秋以降に事業者による環境影響評価報告書が県に提出されると、県の手続き条例に基づくステップが進むこととなりますが、これからも議会は「オール高山」の問題として、市と歩調を合わせながら、さらなる調査研究に取り組んでまいります。